

## おつり投資（金融庁実証実験より）

2021年12月に金融庁の「FinTech実証実験ハブ」第5号案件として実施された“リアルおつり投資に関する実証実験”の結果が公表されている。

**【実験内容】**小売店に隣接した場所に設置された小銭を投入することができる装置（以下、おつり投入ボックス）に、利用者が小銭を投入することによって、買い物の際に生じたおつり等をそのまま投資に回せるおつり投資サービスを提供し、当該サービスにおける以下のオペレーションが適法かつ適正に遂行できるかを検証

**参加企業：**TORANOTEC、TORANOTEC投信投資顧問（投資信託委託会社）、GMOペイメントゲートウェイ（資金移動業者）、セブン銀行（装置の管理・運営等）、ポケットチェンジ（ベンダー）

**実施期間：**2020年2月から4月実施

1. 利用者（投資家）は、アカウント認証を行った上でおつり投入ボックスに小銭を投入
2. 利用者は、自己の端末のアプリ上で、おつり投入ボックスに投入した小銭を投資資金に回す承認を行う
3. 上記の投資承認の締め日として定められた所定の日（承認締め日）に、利用者の投資承認が確定
4. 資金移動業者は、各利用者が承認した金額を投資信託委託会社に送金
5. 投資信託委託会社は、資金移動業者から受領した金銭を運用

**【実験結果に対する金融庁の回答】**投入金を顧客分別金信託の必要額として認識する時期を承認締め日とする整理は妥当とした。また、適切なオペレーションの下、本おつり投資サービスが実施されるのであれば、投資ファンドの勧誘行為は介在しておらず、また資金移動業の外部委託先の管理については、資金決済法の観点から特段の問題はないとした。一方、課題として、多数のおつり投入ボックスを設置した場合におけ

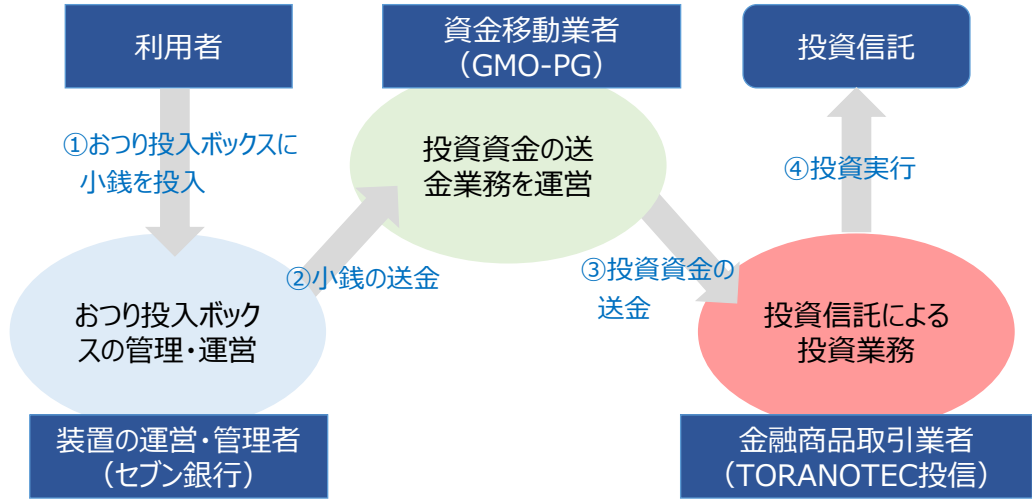
る管理体制の構築方法や、機器の不具合が生じたときの対応方法等を検討する必要があることを確認したとしている。

おつり投資サービスは現在、スマホの家計簿アプリやキャッシュレス決済などと連携して提供されており、主なものとして今回の実証実験に参加しているTORANOTEC投信投資顧問のトラノコや、お金のデザインがドコモ利用者向けに運営しているTHEO+docomo、ロボアドのWealthNaviのマメタスなどがある。トラノコのサービスは、他の2社が最低の投資金額1万円以上なのに対して、5円以上1円単位だったため上記の様なリアルおつり投資に向いている。実際の投資については、個人のリスク許容度に応じて3つのファンドから選択させてファンドマネージャーが実際の投資運用を行う方法をとっており、他の2社はロボアドによる運用方法とは異なっている。なお、各社のおつり投資サービスはポイント投資などとも併せて個人の少額継続投資を支援するものが多くなっている。

例えば、トラノコのおつり発生のおつり発生は、予めおつりが発生するような単位（例えば100円）を定め、家計簿アプリ等を使って買い物をした場合、発生するおつり（320円の買い物では80円）を月1度集計した金額を指定する銀行口座から引き落としていく。また、投資を継続させる仕組みとしては、提携先のポイントが投資に利用できたり、アンケート回答や歩いたり動画を見たりする行為に独自のポイントを付与して投資に利用させている。

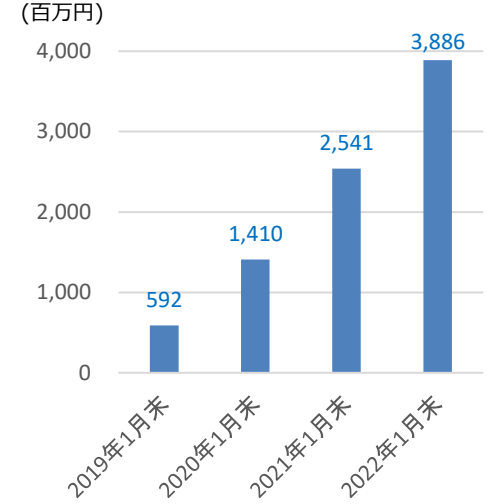
今回実証実験されたリアルおつり投資については、個人がコンビニや小売店などで買い物をしたことで生じるおつりを使って、投資経験をさせるという面では、より個人の投資活動の窓口が広がることが期待される。但し、リアルなおつりであるために、小銭を投資資金として投資信託委託会社まで送金するシステム（おつり投入ボックスや資金移動業者の関与）が必要で、これらのインフラコストを負担していく小売業者のメリットや、少額のおつり投資を本格的に投資まで導いていく金融商品取引業者側の戦略が、おつり投資自体の成長に影響しそうだ。

リアルおつり投資スキーム



※金融庁、概要資料より作成

おつり投資業者の運用資産推移  
(TORANOTEC投信)



※投信協会、統計資料より作成